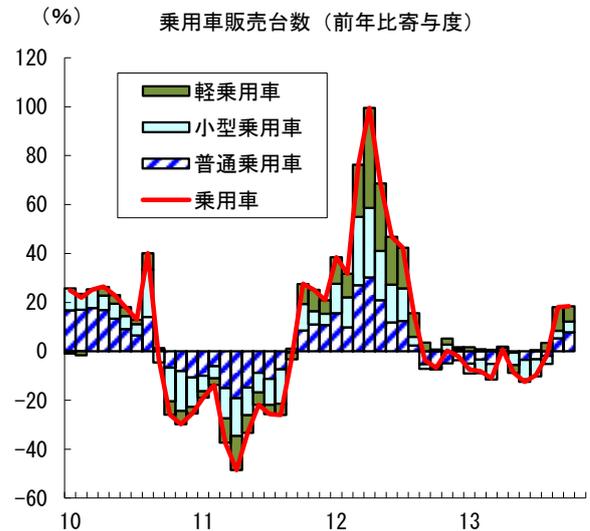
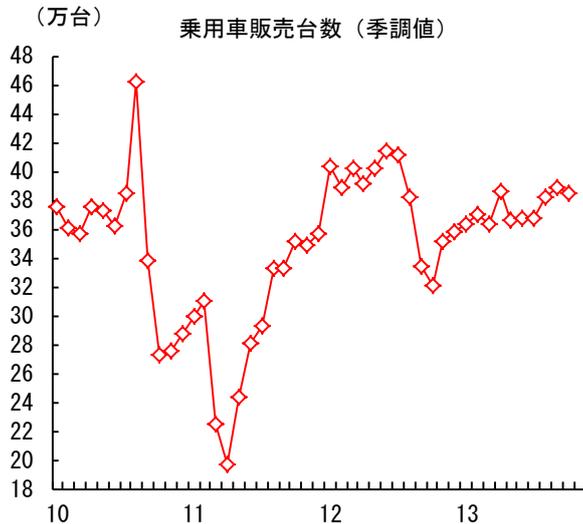


テーマ：新車販売台数（2013年10月）
～駆け込み需要はまだ？～

発表日：2013年11月1日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
エコノミスト 大塚 崇広
TEL:03-5221-4525



（出所）日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

（注）季節調整は第一生命経済研究所

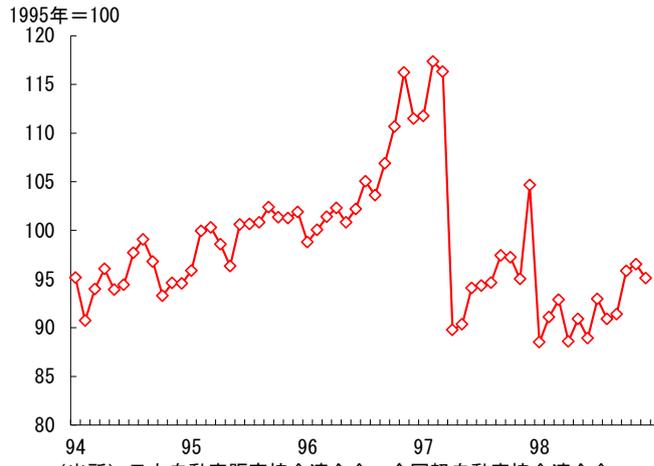
○ 駆け込み需要顕在化の様子は明確には窺えず

10月の乗用車販売台数（普通・小型乗用車販売台数と軽乗用車販売台数の合計）は前年比+18.4%（9月：同+18.1%）となった。季節調整値（当社作成）でみると、前月比▲1.1%と減少している。消費税率引き上げ前の駆け込み需要については、本日の結果をみる限り顕在化の様子はまだ明確には窺えない。ただし、均してみれば新型車投入の効果を背景に増加傾向を維持していることに加え、今後は駆け込み需要が明確に加わることが予想されるため、新車販売は先行き増勢を強めていく可能性が高い。なお、前回1997年4月の消費税率引き上げ時をみると、前年10月頃より駆け込み需要が発生している様子が窺える。

○ 駆け込み需要と車体課税の見直し

今後は駆け込み需要の本格化が予想されるが、車体課税の見直しに向けた動きには注意が必要だ。14年4月の消費税率引き上げの決定と同時に策定された「経済政策パッケージ」には車体課税の見直しも盛り込まれたが、現時点では具体的な措置は決まっていない。ただし、前回のレポートでも指摘したように、仮に取得税率が現行5%から2%に引き下げられたとしても、現状のエコカー減税制度がある中では、取得税率引き下げによる購入者の負担軽減は全体としてはそれほど大きくならないだろう。消費税率引き上げと同時にエコカー減税を拡充することも検討されているが、全体としてはある程度の購入者負担増は避けられないものとみられる。今回も駆け込み需要が13年度の新車販売台数を押し上げる可能性が高い。

前回消費税率引き上げ時の乗用車販売台数（季調値）



(出所) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会
(注) 季節調整は第一生命経済研究所